

平成 23 年度東京都写真美術館コレクション展

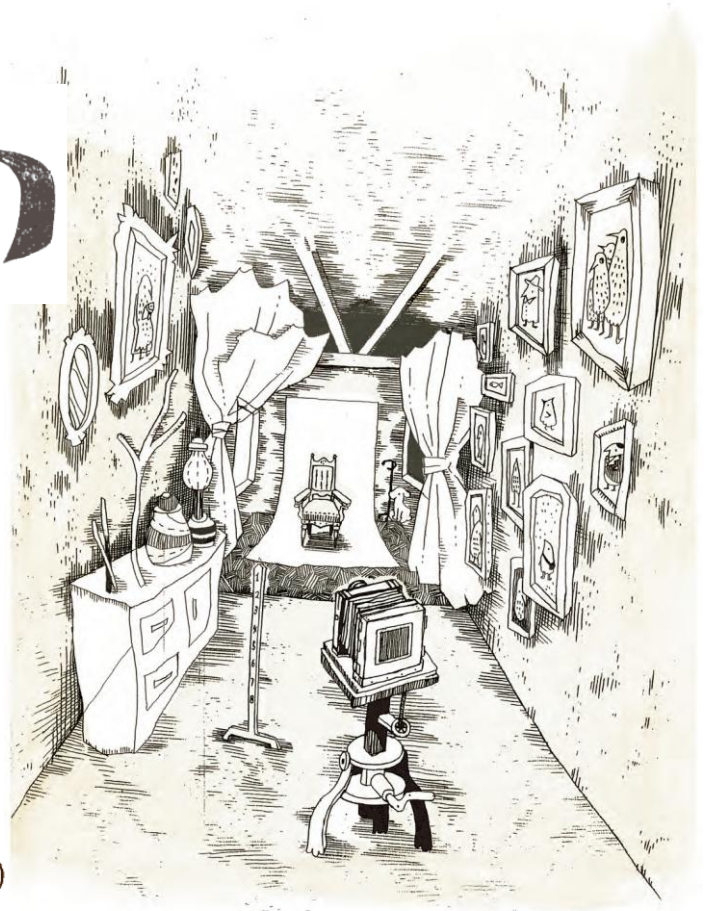
# こどもの 情景

## こどもを撮る技術

Photographs of children

The art of photographing children

2011 7.16 (土) - 9.19 (月・祝)



会場：東京都写真美術館 3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／協賛：凸版印刷株式会社／協力：講談社

### 展覧会概要



縄跳びするマリー・ルー ハロルド・ユージン・エジャートン 1940年 ダイ・トランスファー・プリント

東京都写真美術館のコレクション展は、年間を通じたテーマを設定し、収蔵作品約2万5000点から選りすぐられた名品の数々で構成されています。写真美術館ならではの専門性と企画力、充実した出品ラインナップ、そして1年間を通じてお楽しみいただける親しみやすさを持ち合わせた、当館を代表する展覧会です。

平成23年度は「こどもの情景」をテーマに、5月～12月にかけて3期にわたって開催します。19世紀の写真黎明期から現代まで、こどもをテーマとした国内外の写真家たちの作品をたどり、そこに写しだされた時代の姿やこどものイメージの変遷を、写真の技法や作家の個性とともにご紹介します。

2期目となる「こどもの情景—こどもを撮る技術」は、写真の誕生と発展の歴史をたどりながら、どの時代も、こどもが魅力的な被写体として写真家を魅了し続けたこと

に注目しました。黎明期から現代の作品まで、時代的・技法的にも幅広いコレクションをお楽しみいただける、写真美術館ならではの出品ラインナップです。

## 展示内容

### 「こどもの情景－こどもを撮る技術」

#### Photographs of Children - the art of photographing children



題不詳（家族像） 制作者不詳  
1840-1859年 ダゲレオタイプ  
（下は部分。こどもの手を押さえてブレを防いでいるが、顔はブレている）



生き生きとした、こどもの動きの一瞬を捉えたい。親ならだれもが思うことでしょう。しかし、写真が登場した19世紀中葉の技術は瞬間を切り取ることができず、被写体が静止しなければ、画像はぶれてしまいました。デジタルカメラが主流の今からは考えられないことです。それでも、世界初の写真方式であるダゲレオタイプの時代から、こどもを撮影する努力はされ続けています。写真技術の発展は感光材料の歴史であり、写真初期の技術において、人々はこどもをいかに制止させるか考え、こどもの姿を写真に留めたのです。

1871年になるとリチャード・マドックスがゼラチン乾板を發明、1878年に応用発展されて「スワン乾板」が発売されます。これ以前に主流であったコロディオソソ湿板方式に比べて、感度が飛躍的に向上し、じっとしていないこどもの撮影を可能にしました。携帯性にも優れたため、写真を撮ること自体が徐々に一般化していきました。

自らの子のだけではありません。それが天使的であれ悪魔的であれ、演出写真や芸術写真にも、モデルによるアノニマス（匿名的）なこどもの姿が繰り返し登場します。撮ることが一般的でなかった19世紀、一握りの撮る人々は、様々な角度、視点、技術でこどものイメージを発信し続けました。

本展は、いかにしてこどもを撮影するかを、作品を足がかりに写真技術の歴史に辿ってわかりやすくひもといていきます。写真を撮影することのできる体験コーナーも特設し、こどもを中心に「観る」「撮る」の両面から写真を楽しめる空間が広がります。

#### ■展示構成

Chapter1：写真技術史とこども

Chapter2：表現の中のこども

Chapter3：光で変わるこどもの写真（体験コーナー）

#### ■展示予定点数

約120点

（出品作品はすべて東京都写真美術館のコレクション作品です）

#### ■出品作家

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、フェリーチェ・ベアト、下岡 蓮杖、小島 柳蛙、江崎 礼二、小川 一眞、黒川 翠山、堺 時雄、河野 龍太郎、小川 月舟、フランク・ユージン、大久保 好六 ほか



マーガレット ジュリア・マーガレット・  
キャメロン 1860-70年頃 鶏卵紙

## ① 黎明期の写真と、その進歩。

### 永遠の被写体「こども」の魅力が満載！

写真は 1839 年にフランスで発表されてから、170 年あまりの歴史を重ねてきました。そのあいだ、より完成度の高い画像を求めて、さまざまな試行錯誤が重ねられ、新しい写真技法の発明や、技術の向上がされてきました。

特に、銀メッキの銅板に撮影されたダゲレオタイプ（銀板写真）、ガラス板のネガをそのままポジとして見るアンブロタイプ、卵の白身と食塩を紙に塗り硝酸銀で感光性を与え、ネガを密着させ太陽光で焼き付ける鶏卵紙など、黎明期の写真はその特徴を生かし、またその弱点と戦いながら、さまざまなこどもの姿を残してきました。また、ハロルド・ユージン・エジャートンによるストロボ写真の発明は、動くこどもの瞬間を捉えることができる、まさに技術の革新でした。

被写体としての「こども」は、黎明期から写真家たちを魅了してやみません。さまざまな写真の進歩をご紹介しますながら、こどもがどのように撮られてきたのかを考えます。



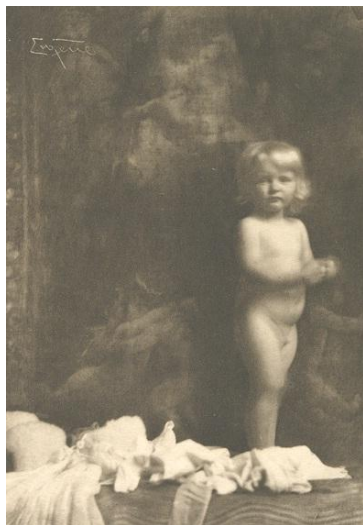
下岡蓮杖 題不詳（子供の花売り） 1862 - 75 年

## ② 表現としての「こども」

肖像写真とはちがう別の目的でも、こどもの写真は撮られています。いわゆる“モデル”として、アノニマス（匿名的）にこどもを使った作品です。こどもが持つ小悪魔的な内面を表現した作品、こどもを天使のイメージと重ね合わせた作品、ピクトリアルな芸術写真など、偶像化・象徴化されたこどもの姿がいくつも残されています。

我が子とは違う、不可思議で魅力的な存在としての「こども」が、写真家を刺激し、新しい表現を誕生させたことを、さまざまな作品で紹介します。

こどものヌード 《『カメラワーク』第三十一巻  
1910年7月》より フランク・ユージン 1910年頃  
フォト・グラフィア



## ③ 「光」の重要性を体験コーナーで実感！

太陽光・人工光にかかわらず、写真は「光」がなくては画像を捉えることができません。それは、黎明期のみならず現在の写真にも通じることです。本展では、展示室内に「光」の重要性を体験できるコーナーを作ります。さまざまな角度から光をあてることで、どのような効果があるのかを確かめます。作品を鑑賞した後に、実際に試してみることで、先人の試行錯誤と優れた技術の醸成を感じることができるでしょう。いままで何気なく撮っていた写真に、新しいヒントを与えてくれることも期待します。ぜひカメラを持ってご来場ください。ご家族で楽しめる展覧会です。



写真を撮るウーナ、1977年「いまだ失わざる楽園」あるいは、「ウーナ3歳の年」  
《静止した映画フィルム》より ジョナス・メカス 銀色素漂白方式印画 1977年

## 関連イベント

### ■担当学芸員によるフロアレクチャー

会期中の第1、第3金曜日14:00より、担当学芸員による展示解説を行います。  
※本展覧会の半券（当日有効）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

### ■写真のこどもに手紙を書こう

東京都写真美術館では「こどもの情景」展に関連して、写真作品を通して芸術文化に対する理解を深め、こどもの創造性と豊かな精神を養うことを目的に「写真のこどもに手紙を書こう。」コンクールを実施します。課題作品の中から1点を選び、写真の中のこどもにメッセージを書いてみましょう。

主催：東京都写真美術館、NPO 法人日仏子供ヴィジョン 後援：フランス大使館

【募集期間】2011年5月14日(土)～9月19日(月・祝)

【応募資格】小学校低学年の部(1年生～3年生)／小学校高学年の部(4年生～6年生)

【参加費】無料

【締め切り】2011年9月19日(月・祝) 必着分まで

【最終審査員】高橋源一郎(作家)、土田ヒロミ(写真家)、山本容子(銅版画家)

応募方法などの詳細はホームページ [www.syabi.com](http://www.syabi.com) をご覧ください。

### ■おしゃべり鑑賞タイム

作品を前に会話をお楽しみいただきながら鑑賞できる「おしゃべり鑑賞タイム」を設けました。いつもの静寂な展示室とはちがう、なごやかな雰囲気の中で、名作ぞろいのコレクション作品をめぐる会話をお楽しみください。

開催時間：毎週金曜日 15:00-18:00

(フロアレクチャー開催日はレクチャー終了後から18:00までとなります)



愛い子 黒川翠山 1906-1910年頃  
ゼラチン・シルバー・プリント

## 展覧会告知

「こどもの情景」展は、下記の2つの日程でも開催中および開催予定です。

「こどもの情景—戦争とこどもたち」2011年5月14日(土)～7月18日(月・祝)

「こどもの情景—原風景を求めて」2011年9月24日(土)～12月4日(日)

## 公式ガイドブックのご案内

「こどもの情景」講談社刊 定価1,890円(税込)

本展の開催にあわせて、「戦争とこどもたち」、「こどもを撮る技術」、「原風景を求めて」の各展より代表的な出品作品を掲載した公式ガイドブック写真集です。各展の担当学芸員によるテキストも掲載しています。

東京都写真美術館ミュージアムショップ ナディッフ X10にて限定発売

## 開催概要

- 展覧会名 こどもの情景—こどもを撮る技術  
Photographs of Children · the art of photographing children
- 会 期 2011年7月16日(土)～2011年9月19日(月・祝)
- 会 場 東京都写真美術館 3階展示室  
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
ホームページ [www.syabi.com](http://www.syabi.com) 電話 03-3280-0099
- 主催関係 主催＝東京都 東京都写真美術館／協賛＝凸版印刷株式会社／協力＝講談社
- 開館時間 10:00～18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで  
※最新の開館情報はお問い合わせください
- 休館日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
- 観覧料 一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)  
※( )は20名以上団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および  
障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
- 交通機関 JR 恵比寿駅東口より徒歩7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分  
※当館には専用の駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

## お問い合わせ

- 東京都写真美術館 電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033
- 展覧会担当 「こどもの情景」展は3つ会期によって担当学芸員が異なります  
戦争とこどもたち：鈴木 佳子 [y.suzuki@syabi.com](mailto:y.suzuki@syabi.com)  
こどもを撮る技術：三井 圭司 [k.mitsui@syabi.com](mailto:k.mitsui@syabi.com)  
原風景を求めて：石田 哲朗 [t.ishida@syabi.com](mailto:t.ishida@syabi.com)  
監修：金子 隆一 [r.kaneko@syabi.com](mailto:r.kaneko@syabi.com)  
副担当：藤村 里美 [s.fujimura@syabi.com](mailto:s.fujimura@syabi.com)
- 広報担当 久代 明子 [a.kushiro@syabi.com](mailto:a.kushiro@syabi.com) 平澤 綾乃 [a.hirasawa@syabi.com](mailto:a.hirasawa@syabi.com)  
前原 貴子 [t.maehara@syabi.com](mailto:t.maehara@syabi.com)

プレス掲載用に図版データをご用意しています。上記広報担当までお問い合わせください